

印西市の障害福祉関係者と当事者とのグループ別対話会(ご意見と回答)

1. 日時 令和7年12月22日

2. 場所 印西市役所市長応接室

3. 出席者 印西市の障害福祉関係者と当事者、市長、障がい福祉課、秘書広報課

4. 内容

(1)障害福祉サービスの現状(データ共有)と不足分野の認識

関係課:障がい福祉課

【参加者発言(要旨)】

参加者より、市の障がい者プラン記載内容等に基づき現状データを提示。

- ・ 障害児通所支援:2022年度 支給決定者数 514人(増加傾向)
- ・ 成人の障害福祉サービス:2022年度 支給決定者数 608人(増加傾向)
- ・ 自立支援医療(精神):増減はあるが全体的に増加傾向
- ・ 手帳所持状況:重度(1・2級)の比率が高い傾向
- ・ 療育手帳:増加、特に軽度(グレーゾーン)の増加が目立つ

不足・今後不足が懸念されるサービス(アンケート等から)

- ・ 訪問系:行動援護の不足
- ・ 日中系:短期入所、生活介護の不足懸念
- ・ 居住系:共同生活援助(グループホーム)のニーズが高い
- ・ 相談支援:児童通所(児発・放デイ)や障害児者の相談支援ニーズが高い

利用者数が増えている中で、市内の受け入れ先が足りるのか不安がある

- ・ 短期入所が不足しており、ほとんど市外を利用しているのではないかと
- ・ 生活介護については量的に枯渇しているというより、本人に合う(気に入った)事業所が市内にないため市外へ、という側面もある

強度行動障害の方に対する市の独自支援(最重度補助金)について、市が把握して見られている印象で、事業所として励みになっている。

【市長発言(要旨)】

需要が増えている中で、受け手が足りなくなるんじゃないか、という指摘は従前から受けています。市としても悩みながらだが、状況は承知しています。

分野によってはまだまだ足りない分野もありますが、担当課と引き続き検討してまいります。市内で1カ所新規の施設が新設したことにより、少し緩和した部分はありますが、予断を許さない分野もあると認識しています。

(2)通所・送迎の課題(特別支援学校等)／学区指定について

【参加者発言(要旨)】

- ・ 事業所より送迎実務の厳しさが共有された。
- ・ 特別支援学校等へ送迎に行くが、同じ時間帯に迎えが集中し、人材と車の確保が難しい。
- ・ 印旛特別支援学校は印西にあるのに、ニュータウン側が我孫子方面の指定になっている事情があり、送迎負担が増える。印旛なら迎えに行けるのに、という実感がある。

【市長発言(要旨)】

バスの話は毎回ご指摘を受けるところであり、学区の扱いについても同様です。県とも何度もディスカッションし、要望しているところです。引き続き対応を進めてまいります。

(3)教育現場の課題:特別支援学級の増加、教員体制・研修提案

関係課:学務課

【参加者発言(要旨)】

相談支援等の立場から、保護者・学校現場の双方に起きている課題について共有

- ・ 支援学級の先生の当たり外れが大きい、という声がある
- ・ 普通学級で対応が難しい先生が支援級に回る構造もあるが、支援級の方が手がかかる
- ・ 支援級の先生が疲れてしまい現場に出られず、教頭が授業に入って学校が回らないケースがある
- ・ グレーゾーンが増え、支援級が急増。支援級 10 クラス以上の学校もある
- ・ 解決策として、特別支援対応スキル向上の研修会(年 2~3 回、オンライン併用、意欲ある教員から参加等)を市として検討してほしい

【市長発言(要旨)】

体制がまだまだという認識はあります。ご提案内容は教育委員会にも共有し、できることからやっていきたいと考えています。

教育総合会議のテーマの一つにインクルーシブ教育がありましたが、講演を聞いて「印西はまだまだだな」と痛感しました。一つずつ進めていきたいと考えています。

【学務課補足】

印西市で行っている対応の一つとして、特別支援学級担任の支援としての市職員(支援員)配置を行っており、支援学級の増加に伴い、配置人数も増やしている現状です。

市主催の研修会については、特別支援学級に関わる教職員のスキル向上や情報交換を目的とした研修を3種類計5回、また学校からの要請に応える形でサポートも実施している状況ですが、内容や回数などについて検討を進めていきたいと考えています。

(4)重症心身障害児者・医療的ケア児者:通所先の不足、家族負担

関係課:障がい福祉課

【参加者発言(要旨)】

- ・ 市内外の受け入れ先は限られ、近隣もほぼ定員いっぱい
- ・ 受け入れ枠が増えにくい背景として、介助者不足・看護師採用難があり、質を担保するため人数制限が出る
- ・ (参加者の)家族は去年は市内に生活介護がなく、市外 2 か所に通った。今年新しい施設ができたので追加して、今は 3 か所に週 4 日通っている
- ・ 医ケア対応ができるところが基本的に少ない。生活介護は“たくさんある”と言われても、医ケア対応が難しいので、私の中では数が多いとは感じない
- ・ (参加者の)こどもの訪問入浴は週 2 回。それ以外は主人が入れている。本人の体重も増えて、家族の負担が大きい。もう 1 回増えると楽になる

【市長発言(要旨)】

担当課と改めて相談してまいります。分野によって不足が残っていることは承知しているので、一步一步、現状を確認しながら進めていきます。

【障がい福祉課補足】

医療的ケア児者や重度の障がいのある方に対応できる通所事業所については、十分とは言えず、依然として課題があることを認識しています。今後は、施設整備および職員確保の両面から、丁寧に取り組んでいく必要があると考えています。

(5)災害対策:避難の実効性(マンション上階等)／個別避難計画の“点→線”

関係課:障がい福祉課、防災課

【参加者発言(要旨)】

- ・ マンション 8 階に住んでいる。名簿の更新はしているが、いざ避難となると周りは自分のことではっきりいって、手伝ってもらえる状況ではないと思う。
- ・ 以前、エレベーター点検中に階段で降ろしたことがある。まず車いすを降ろし、その間は家族が付き添わないといけない。その後、抱えて降ろした。今は体重も増えており現実的に難しい。
- ・ 個別避難計画はあるが書類で止まりがちで、災害時に誰が判断し、誰が動くかが見えにくい。
- ・ 計画を“点”で終わらせず、“線(顔の見える連携)”にしていく必要があると思う。
- ・ 情報共有システム整備(例:他市の仕組み)と、行政主体の連携の場づくり(顔の見える関係)を提案。

【市長発言(要旨)】

“点から線へ”はおっしゃるとおりです。ご提案は防災課にも共有します。防災のあり方を見直す検討を進めています。ロードマップを作って一步一步進めているが、まだまだという指摘は承知しています。11万人を私だけで守るのは難しいところがあります。市民の力も借りながら受け止められる体制をつくりたいと考えています。

(6)学校行事への来賓出席について

関係課:学務課

【参加者発言(要旨)】

卒業式・入学式で近隣市は来賓が来ているが、印西市からは来賓がいないように見え、寂しかった。

【市長発言(要旨)】

招待が届いているなら、次回以降は出席者を調整します。申し訳ありません。

(7)投票支援(意思表示が困難な場合)

関係課:選挙管理委員会事務局

【参加者発言(要旨)】

投票所で本人の意思を担当者が確認できないと投票できないと言われた。親として、子どもの将来を思って投票したい気持ちがある。どうにかできないか

【市長発言(要旨)】

選挙管理委員会に確認します。

【選挙管理委員会事務局】

現行の選挙制度によりますと、選挙人本人が投票所に行き、自らの意思で投票することが原則となっています。従いまして、どの候補者や政党その他の政治団体に投票したいか本人の意思(指示)が確認できない場合に、ご家族や付き添いの方が本人に代わって投票するような方法はありません。これは、本人投票主義を明らかにしたもので、秘密投票の趣旨を貫き、選挙の公正を保持しようとするものであって、委任投票や代理人投票は原則として認められないという趣旨でもあります。

なお、本人の意思(指示)が確認できる場合には、その意思に基づき、投票所の係員が代理で投票用紙へ記載を行う代理投票の制度があります。